

B型肝炎及びC型肝炎治療に係る アンケート調査の結果について

【R2.1月 実施】

回答者

- ・B型肝炎 19医療機関(対象者53名)
- ・C型肝炎 46医療機関(対象者344名)

B型肝炎及びC型肝炎治療に係るアンケート調査(概要)

目的

B型肝炎に係る核酸アナログ製剤治療受給者証の更新を行わなかった者の原因及びC型肝炎治療を受けた患者の治療結果のデータを集積し治療成績等を分析することで、本県の肝炎対策の推進のために活用する。

対象者

(1) B型肝炎

青森県肝炎治療特別促進事業のうち、R1年度にB型ウイルス性肝炎に対して行われる核酸アナログ製剤治療を行っている患者(更新対象者834名)で、受給者証の更新を行わなかった者

対象者:53名(19医療機関)

(2) C型肝炎

青森県肝炎治療特別促進事業のうち、C型ウイルス性肝炎の根治を目的として行われたIFNフリー治療患者で、平成30年度に受給者証を交付した者

対象者:344名(46医療機関)

【内訳】

治療方法	調査内容	対象人数
ソバルディ錠及びリバビリン製剤併用療法	治療終了後12週間後の状態	3名
ハーボニー配合錠		69名
エレルサ錠及びグラジナ錠併用療法		14名
マヴィレット配合錠(8週間)		172名
マヴィレット配合錠(12週間)		86名

回答状況

(1) B型肝炎

回答率96.2%

(53名中51名分回答 (19医療機関中17医療機関から回答))

(2) C型肝炎

回答率95.9%

(344名中330名分回答 (46医療機関中44医療機関から回答))

治療方法	回答状況	回答率
ソバルディ錠及びリバビリン製剤併用療法	3名/3名	100.0%
ハーボニー配合錠	68名/69名	98.6%
エレルサ錠及びグラジナ錠併用療法	14名/14名	100.0%
マヴィレット配合錠(8週間)	159名/172名	92.4%
マヴィレット配合錠(12週間)	86名/86名	100.0%

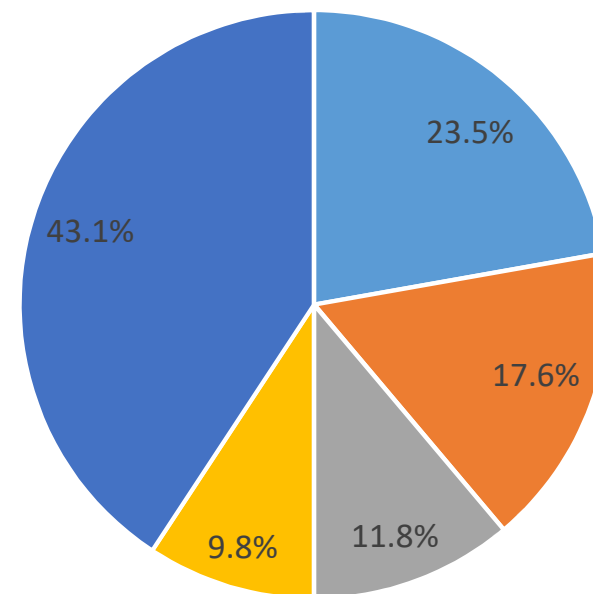
アンケート結果-1

(1) B型肝炎

【質問】

病院で把握している範囲において、受給者証の更新を行わなかった理由を教えてください。

理由	人数	割合
死亡した。	12	23.5%
ジェネリック医薬品(後発医薬品)を使用することにより限度額1万円(2万円)を超えないため。	6	17.6%
薬を服用しなくても検査値が安定しているため。	6	11.8%
医療機関で把握していない。	5	9.8%
医療費の自己負担額(3割→1割等)が変わり、限度額1万円(2万円)を越えないため	0	0%
※その他(具体的に欄外に記載してください)。	22	43.1%
合計	51	100%



※「その他」の主な回答

- ①更新し忘れ 9名
- ②転院 6名
- ③投薬中止 3名

- 死亡した
- ジェネリック医薬品使用
- 検査値安定
- 医療機関で把握していない
- その他

アンケート結果-2

(2)C型肝炎

【質問】

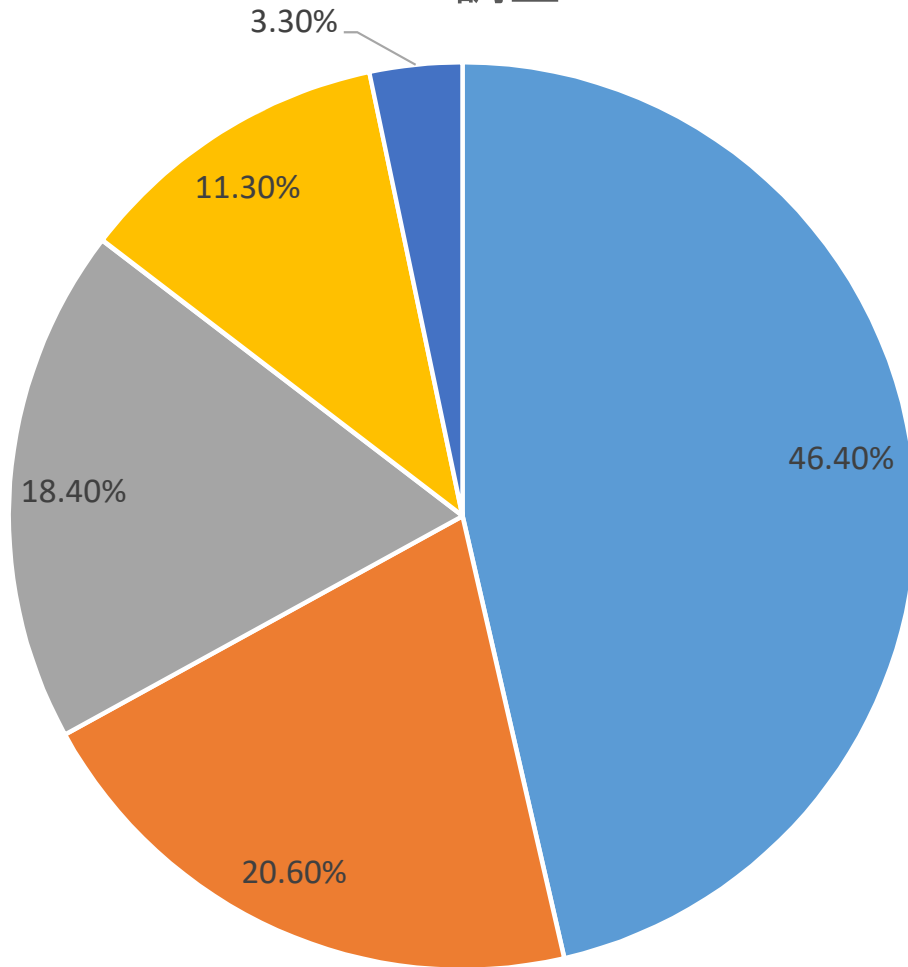
医療機関において患者を受付けた経緯を教えてください。

項目	H30 調査 人数	R1 調査 人数	H30全体 に対する 割合	R1全体 に対する 割合
肝炎の治療をするために、他の医療機関から紹介された。	189	131	46.4%	39.7%
他の病気の治療中で通院中にわかった。 (ex.骨折で入院中での手術前検査など)	75	82	18.4%	24.8%
以前から通院しており自院の患者である。	84	63	20.6%	19.1%
肝炎ウイルス検査陽性で来院した。 (献血、健診、保健所での検査、人間ドックなど)	46	41	11.3%	12.4%
不明	13	13	3.3%	3.9%
合計	407	330	100%	100%

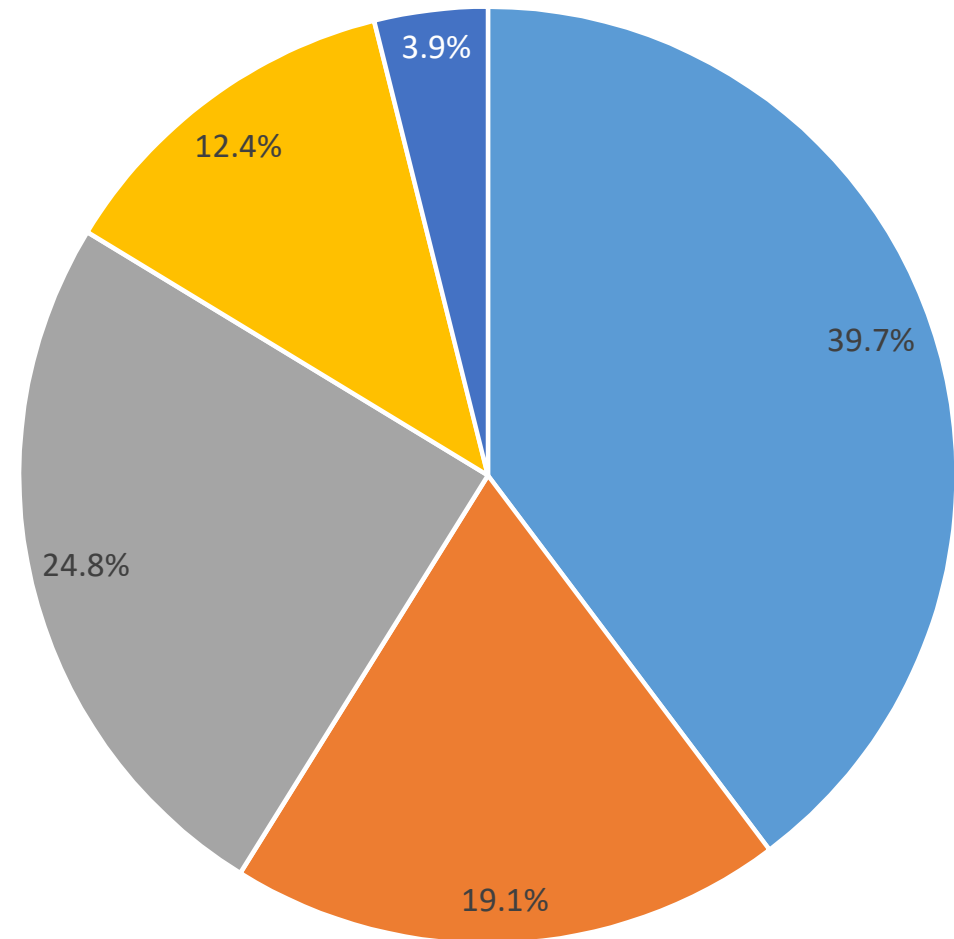
【結果】

- ・平成30年度・令和元年度調査時ともに、通院中に判明したか他院から紹介された割合が高い。
- ・健診等で検査陽性により来院した割合は、H30年度調査時より増えており、12.4%だった。

H30調査



R1調査



- 肝炎の治療をするために、他の医療機関から紹介された。
- 以前から通院しており自院の患者である。
- 他の病気の治療中で通院中にわかった。
- 肝炎ウイルス検査陽性で来院した。
- 不明

- 肝炎の治療をするために、他の医療機関から紹介された。
- 以前から通院しており自院の患者である。
- 他の病気の治療中で通院中にわかった。
- 肝炎ウイルス検査陽性で来院した。
- 不明

アンケート結果-3

【質問】

受給者の治療結果について教えてください。

【結果(全体)】 (330名)

(全体)	SVR12 達成	SVR12 達成	有効回 答件数	治療終了		治療中止		その他
	H30	R1		ウイルス 消失有	ウイルス 消失無等	ウイルス 消失有	ウイルス 消失無等	
ソバルディ錠及びリバビリン製剤併用療法	77.5%	66.7%	3	2	0	0	0	1
ハーボニー配合錠	88.1%	92.6%	68	63	0	0	2	3
エレルサ錠及びグラジナ錠併用療法	88.7%	85.7%	14	12	0	1	0	1
マヴィレット配合錠(8週間)	92.9%	91.8%	159	146	3	0	1	9
マヴィレット配合錠(12週間)	86.8%	89.5%	86	77	3	0	2	4
ヴィキラックス配合錠(12週間)	77.8%	—	—	—	—	—	—	—
ヴィキラックス配合錠(16週間)	88.9%	—	—	—	—	—	—	—
ジメンシー配合錠	40%	—	—	—	—	—	—	—
合計	85.7%	90.9%	330	300	6	1	5	18

※算出方法※

【結果】

全体では、90.9%がウイルス消失した。

赤枠:分子
青枠:分母
として算出

治療終了と回答					治療中止と回答			その他
消失	再燃	プレ イク スル	無効	不明	ウイルス 消失有	ウイルス 消失無	不明	自己中断etc...

※認定期間内に治療しなかった者は分母に含めない。

アンケート結果-4

【県内の肝臓専門医】(200名)

(肝臓専門医)	SVR12 達成	SVR12 達成	有効回 答件数	治療終了		治療中止		その他
	H30	R1		ウイルス 消失有	ウイルス 消失無等	ウイルス 消失有	ウイルス 消失無等	
ソバルディ錠及びリバビリン製剤併用療法	86.8%	0.0%	1	0	0	0	0	1
ハーボニー配合錠による治療	93.2%	79.1	24	19	0	0	2	3
エレルサ錠及びグラジナ錠併用療法	97.6%	100%	9	8	0	1	0	0
マヴィレット配合錠(8週間)	97.1%	89.8%	108	97	2	0	1	8
マヴィレット配合錠(12週間)	89.7%	89.7%	58	52	3	0	1	2
ヴィキラックス配合錠(12週)による治療	60%	—	—	—	—	—	—	—
ヴィキラックス配合錠(16週)による治療	88.9%	—	—	—	—	—	—	—
ジメンシー配合錠	25%	—	—	—	—	—	—	—
合計	90.8%	88.0%	200	176	5	1	4	14

アンケート結果-5

【県内の消化器病学会専門医】(130名)

(消化器病学会専門医)	SVR12 達成	SVR12 達成	有効回 答件数	治療終了		治療中止		その他
	H30	R1		ウイルス 消失有	ウイルス 消失無等	ウイルス 消失有	ウイルス 消失無等	
ソバルディ錠及びリバビリン製剤併用療法	85.1%	100%	2	2	0	0	0	0
ハーボニー配合錠による治療	93.4%	100%	44	44	0	0	0	0
エレルサ錠及びグラジナ錠併用療法	81.8%	80.0%	5	4	0	0	0	1
マヴィレット配合錠(8週間)	90.5%	96.1%	51	49	1	0	0	1
マヴィレット配合錠(12週間)	88.9%	89.3%	28	25	0	0	1	2
ヴィキラックス配合錠(12週)による治療	100%	—	—	—	—	—	—	—
ヴィキラックス配合錠(16週)による治療	0%	—	—	—	—	—	—	—
ジメンシー配合錠	100%	—	—	—	—	—	—	—
合計	89.6%	95.4%	130	124	1	0	1	4